

テーマ：ロイター短観（2009年9月）
～製造業、非製造業ともに改善～

発表日：2009年9月17日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 岩田 陽之助
TEL：03-5221-4525**○製造業DI：改善**

9月ロイター短観（調査期間8月26日～9月11日）の製造業DIは▲33と前月（▲42）より9pt改善し、改めて製造業のマインドが持ち直していることが確認された。在庫調整の進展や輸出回復を背景に、製造業の循環的な回復は続いている。

内訳を見ると、加工型は▲37と前月（▲48）より11pt改善した。中国の家電下郷や日本のエコポイントなどの政策効果によって電機（8月▲47→9月▲36）の回復が続いているほか、各国の自動車購入支援策によって輸送用機器（8月▲67→9月▲50）も再び上昇に転じた。一方、金属・機械は（8月▲58→9月▲60）再び悪化している。生産活動の水準が未だに低いことから、設備投資関連業種の景況感の回復テンポは相対的に鈍い。

素材型は、▲26と前月（▲33）より7pt改善した。鉄鋼・非鉄（8月▲80→9月▲80）は横ばいに止まったものの、他の分野は全て改善している。中国の需要拡大により化学（8月▲18→9月▲13）が回復したほか、石油・窯業（8月▲30→9月▲27）や繊維・紙・パルプ（8月▲50→9月▲29）も上昇した。

○非製造業DI：小幅改善

非製造業のDIは▲34と前月（▲38）より4pt改善した。内需の弱さから製造業に比べ改善は小幅に止まっている。

内訳を見ると、製造業の回復による物流量増加を受けて、卸売（8月▲28→9月▲19）や運輸・電力等（8月▲59→9月▲50）が上昇したほか、マンション販売に底打ちの兆しが見え始めたことを受け、不動産・建設（8月▲50→9月▲40）が回復している。一方、情報サービス（8月▲8→9月▲17）や小売（8月▲38→9月▲41）は悪化した。特に注目される点としては、個人消費と関連の深い小売が3ヶ月連続で悪化していることがあげられる。4-6月期の個人消費は持ち直したが、これは定額給付金や高速道路料金引下げなどの経済対策によるところが大きい。雇用環境の悪化、夏季ボーナスの大幅減少や天候不順から7-9月期の個人消費の伸びは鈍化する可能性が高い。

先行きについても、製造業に比して景況感の改善が乏しい展開は続くだろう。前述の通り経済活動の水準が低位に止まる中、企業のコストカット意欲は強く、人件費や企業向けサービスに対する支出の抑制姿勢は続くと考えられる。内需の弱さが残存することで、非製造業のマインドは製造業に比べて回復感の乏しい展開が続くと予想される。

○日銀短観（9月調査）：製造業を中心とした改善が予想される

10月1日には日銀短観が発表されるが、ロイター短観は日銀短観の大企業・業況判断DIの動向を探る上で注目される。日銀短観は四半期ベースであることから、9月のロイター短観を6月対比で見ると、製造業は17ptの改善（加工組立型は19ptの改善、素材型は13ptの改善）、非製造業は3ptの改善となった。日銀短観においても、製造業を中心とした景況感の改善が確認されるだろう。

